

直方の歴史と文化

東蓮寺藩主館跡（初代から三代）
双林院（天台宗）

文 榊正澄

第 58 回

殿町通りの向野堅一記念館から西側へ進むと鉄道線路沿いの旧長崎街道（通称・のぐちギャラリー通り）へ向かう途中の右側に双林院があり、ここは初代から三代までの東蓮寺藩主の居館があったところです。

天台宗の寺院で、山門の看板には正字で「雙林院」と書かれています。少し離れた民家の前に、以前は直方ロータリークラブが平成15年（2003年）に設置して直方市に寄贈した説明板がありました。建屋解体工事の際に撤去されました。

『ここから東側、天台宗双林院とその南側の小高い一帯は、初代高政から三代長寛までの東蓮寺藩主館跡である。』

四代長清の時、現在の御館山に移ったが当時を描いた「直方惣郭図」には双林院は「以前四方石ノ節之御館」とあり、その南に「御永蔵」がある。西の山下の水濠

は分岐して丁字形に寺地を囲み、御永蔵の東辺までのびており、館は水濠を巡らせていたことがわかる。一帯の標高は周辺に比べ2メートルほど小高くなっている。一方、「直方旧考」には、この地は土豪尾仲氏の屋敷地であったものを退去させて藩主居館を築いたとあり、中世の豪族居館を整備拡張したものといえる。尾仲氏居館の規模構造は不明だが、年代的にも土塁など防御機能を備えていたと推定され、水濠もこの時期にさかのぼる可能性がある。



御殿、多賀神社と双林院
(直方惣郭図から)

文化財に関する問い合わせ
文化・スポーツ推進課社会教育係
(TEL 25-12326)



双林院（殿町）

東蓮寺藩時代の館の規模も不明だが、双林院だけでは四万石の藩主居館としては手狭であること、長清の居館規模が方五十三間半であること、水濠が御永蔵の東南端までを囲むことなどから、双林院と御永蔵を合わせたほぼ四十間四方（約5200平方メートル）と推定できる。また居館建物のうち「御台所」は御館山の長清居館に移築されたという。

城ではなく居館なのは？

大坂夏の陣の直後の1615年に徳川幕府が出した一国一城令により東蓮寺藩は藩主居館となりました。

双林院の位置の意義は？

双林院は新藩主館の鬼門（東北）の守護のため福智山麓から永満寺に移設して改称されました。

これは京都御所と比叡山延暦寺、江戸城と上野寛永寺と同じ思想に基づくものです。

人の動き

■人口 56,603人 (-230)	■世帯数 27,197世帯 (+107)
〔うち外国人595人〕	
男 27,736人 (-66)	全て令和元年11月末現在
女 29,867人 (-164)	()は前年同月との比較



- ◆発行…直方市
〒822-8501 福岡県直方市殿町7番1号
URL <http://www.city.nogata.fukuoka.jp/>
- ◆発行日…毎月1日(月1回)
- ◆編集…企画経営課ふるさと情報係
TEL (0949)25-2236 / FAX (0949) 24-3812
E-MAIL n-koho@city.nogata.fukuoka.jp
- ◆印刷・制作…株式会社ワールドプリンティング

携帯電話向け情報提供サービス

<p>直方市 ホームページ 市の情報がもりだくさん</p>	<p>情報メール 「つながるのおがた」 緊急情報、イベント情報など</p>	<p>直方市 インスタグラム さあ、あなたもフォロー!</p>	<p>直方市バーチャル ミュージアム 直方の文化を隔々まで</p>
---------------------------------------	-----------------------------------------------	-----------------------------------------	-------------------------------------------